

祭の中の芸能は「○○神楽」「○○舞」「○○踊り」等と呼ばれ、時代や地域によってその形態は様々。その形態から、先学を参考にすると、巫女神楽、採物神楽、神代神楽、湯立神楽、獅子神楽などに分類されるが、同じ芸能であっても、その演目や場面によって、芸能を演じる人々の意識が、カミに向かわれる場面と、ヒトに向かられる場面があり、それによって、披露される芸能の意味が異なってくる。そこで、ここでは、芸態ではなく、人々の意識の方向に注目して、以下の①～③のように、祭の芸能を分類してみる。

①人々の意識がカミに向かられている芸能・場面を「奉納系・神事芸能」と呼ぶ。これが狭義の神楽にあたる。

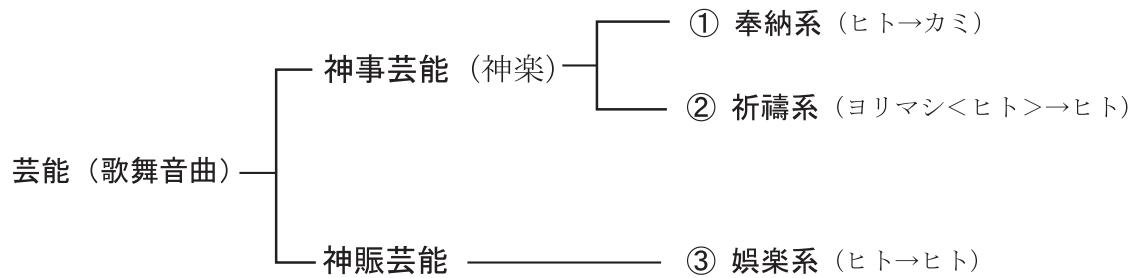
②人が神威を借りてカミの代理人（ヨリマシ）となり、ヒトに対して清祓や悪魔祓などを行なう芸能・場面を「祈禱系・神事芸能」と呼ぶこととする。

③人々の意識が、カミの存在を意識しながらも、氏子同士、見物人に向けられている芸能・場面を「娯楽系・神賑芸能」と呼ぶこととする。

同じ芸能の同じ演目であっても、社前にて奉納する「神事芸能」として演じられることもあれば、氏子や見物人に向け披露する「神賑芸能」として演じられることがある。

舞	鈴の舞 四方の舞 跳びの舞 扇の舞 吉野舞 ささの舞 剣の舞 神来舞
曲	綾探の曲 水の曲 手毬の曲 傘の曲 献灯の曲 玉獅子の曲 剣三番叟 魁曲

○ヒトの心の方向性を基準とした「祭の芸能の分類」（森田試案）



祈禱系の神楽（御師邸宅での湯立神楽）『伊勢参宮名所図会』



江戸期は京都にも伊勢大神楽が訪れた『花洛細見図』

伊勢大神楽の芸能の性格			
こそぎ 戸禊 (竈祓・悪魔祓)	神事芸能	(祈禱系)	
獅子舞	二人立・聖獸		(奉納系)
	一人立・採物舞		
総舞	放下芸 (曲芸)	神賑芸能 (娯樂系)	
	萬歳		

伊勢大神楽では各戸ごとのお祓い（祈禱系・神事芸能）を核するが、全戸のお祓いが終わると、神社の境内などで総舞と呼ばれる複数演目からなる芸能を披露する。その中で、獅子舞は神社の祭神に対して奉納される「奉納系・神事芸能」としての性格が強く、一方で、様々な曲芸（放下芸）や笑いを誘う萬歳は、氏子をはじめとした見物人に対する娯楽系の「神賑芸能」としての性格が強い。

祭の存続には「神事」と「神賑行事」とのバランスが大切。伊勢大神楽はその両方が巧みに織り込まれている事例。